

宮古島におけるスポーツツーリズムに関する研究

1214077 七戸佐智代

① 研究動機、研究目的

現在では離島をはじめ、様々な地域でスポーツを観光資源として扱い、国内観光の振興や訪日外国人の増加につなげる動き（スポーツツーリズム）は当たり前になりつつある。こういった動きは、地域活性化策としての新しいビジネスモデルとして期待されている。スポーツツーリズムを積極的に展開することにより、旅行費用の拡大や雇用創出につながり、日本経済においても大変意義深いものとされている。本研究では、スポーツ大会が多く行われる宮古島におけるスポーツツーリズムが訪日外国人増加にどの程度影響を与えているのかを明らかにし、宮古島におけるスポーツツーリズムと外国人観光客の現状と課題について検討する。宮古島市の地形は起伏が緩やかで、山岳もが少ない。そういった点でもスポーツ大会をするのには適している環境であるといえる。毎年国際的規模のイベントである前日本トリアスロン宮古島大会、プロ野球のキャンプ、各種スポーツ団体の合宿等が行われ、島全体が「スポーツアイランド宮古島」としても活気づいている。本研究の目的では、まず宮古島におけるスポーツイベントの現状を把握し、宮古島においてスポーツツーリズムどのような位置づけかを明らかにする。上記を明らかにした後、スポーツイベントに参加する観光客の実態を明らかにし、そこに対する行政、住民の視座も明らかにする。最終的には宮古島におけるスポーツツーリズム事業と観光客についての関係を明らかにし、宮古島におけるスポーツツーリズムの可能性を探ることを目的とする。

② 研究方法

1、資料調査

沖縄県ホームページ、宮古島市ホームページ、観光庁ホームページ、先行研究を調査した。

2、実地調査

平成 29 年 7 月 5 日から 10 日にかけて宮古島市へ実地調査を行った。

5 日 19 時頃、宮古空港に到着

6 日 10 時 宮古島市役所に訪問し、インタビュー調査

7 日 全日 宮古島市在住の方にインタビュー調査

9 日 ツールド宮古島の参加者関係者にインタビュー調査

10 日 8 時ごろの便で東京へ

3、調査内容

市役所、住民、イベント参加者、イベント開催者、観光客にインタビュー調査

③ 結果と考察

1、住民と行政

外国人観光客の誘致を進め、市をより豊かにしていきたいと考える行政と今までのような安心できる環境や暮らしが外国人観光客の増加により多少なりとも変化してしまうことに難色を示す住民の間にある軋轢がある。これからも誘致に力をいれていくのなら、一つ一つの取り組みに対する住民の理解を確実に獲得していかなければならない。

2、宮古島とスポーツツーリズム

クルーズ船により訪れる外国人観光客の目的は、買い物とレジャーである。宮古島で行われるスポーツツーリズムは外国人観光客に対して効果を見出だせていない。外国人観光客が参加したいと感じるような魅力を見いだす必要がある。

3、スポーツツーリズムと住民

宮古島トライアスロンに対しての住民の協力と、それ以外のスポーツ大会に対する協力の姿勢の違いが顕著である。トライアスロン大会以外は大会の開催日時も知られていなかったり、交通規制にも非協力的な住民も多い。これにより、今回のツールド宮古島の参加者は複雑な感情を抱いている。宮古島市としてスポーツツーリズムを進めていくのであれば、移住者を含むすべての住人にスポーツツーリズムのメリットや必要性を説いていく必要がある。

④ 結論

宮古島市がスポーツツーリズムをより活発に、さらにスポーツツーリズムによって外国人観光客を誘致していくためには、移住者を含めた住民からスポーツツーリズムに関する事業や試みの理解を得ることが不可欠である住民の協力なくして観光事業は成り立たない。さらに外国人観光客を誘致していくには、外国人観光客にとって魅力的であり、メリットを見出だせるような特徴をもつスポーツ大会を開催していくことも重要だ。そのためにはまず、地元住民の協力を確実なものにしていく必要があるだろう。

⑤ 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文を通して、様々な角度や視点からものを考えることで、見えてくるものや情報量が増えるということを実感した。特に、今回の研究のように実地調査を伴うものは、現地を訪れた際、日常のさりげない1シーンに自分の研究対象と何かしらの関連を見出だせるかどうか重要なポイントである。実際に訪れ、目で見て肌で感じることは、なにかを発見するためには不可欠であるのだと思う。卒業論文を執筆するにあたり、それらを学べたことは大変貴重な体験であった。また、論文に関して右も左も分からない状態であった私に細かく丁寧に指導して下さった渡津教授には心から感謝を申し上げたい。